

令和6年度 都立紅葉川高等学校 経営報告

1 今年度の取組目標と方策（☆は重点目標）

（1）学習指導

①目標

思考力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成し、学力の向上を図る。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 授業の改善を図る。 ア) 主体的、対話的で深い学びをさせる授業づくりを図り思考力、判断力、表現力、読解力、文章力、情報収集・活用能力を育成する。 ・考えさせる発問、考えさせる課題 ・文章や図、表の読み取り、分析、まとめと発表 イ) 英検取得を目標に、英語4技能の育成を図る。 ウ) 校内の教員相互の授業見学3回以上とフィードバックと外部の優れた授業見学1回以上で、授業改善につなげる。 エ) Teams等の活用で、将来の働き方に対応する人材育成。	ア 授業改善の取り組み ア) 全教科で思考力の育成を図った。授業進行のために発表時間が取れない場面もあった。文章検定の導入で、読解力の向上を図った。 イ) 4技能育成のための英語での活動の充実。JETによるインビュで育成。英検向けの講習実施。 ウ) 校内での相互授業見学とフィードバックは個人差あり。見学後フィードバックを確実にしたい。 エ) Teamsや学習支援ソフト活用での週末課題等の配信が増え、効果が認められた。
イ 学力の向上を図る。 ア) 模擬試験やスタディサポート結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を組織的に行う。 イ) 家庭学習等を前提とした授業作りと習慣づけ。 ウ) 土曜講習の有効活用と各種相談の充実。 エ) スマスク端末と学習コンテンツの効果的な活用	イ 学力向上への取り組み ア) 学年毎の分析結果に基づいた個別指導実施。 イ) 1、2年生で学習支援ソフトを活用し、家庭学習習慣の確立に取り組んだ。 ウ) 年間を通して14回実施した。 エ) すき間時間活用の自習スペースを各階設置。

③課題と改善策

ア 生徒には目標設定と学習意欲に差がある。目標を決めて意欲的に取り組む生徒は学力の学力向上が著しく、目標が見つからず、自分に合う学習法に迷う生徒等は伸びる手がかりがない。組織的継続的な、個に応じた指導を丁寧に行う必要がある。今年度始めた「第一志望届」の活用を継続的にしたい。

イ 家庭学習や自学自習の習慣が身につかない生徒が多数見受けられる。2学年の2学期までに、生徒自身に卒業後の目標をもたせ学習への意欲を喚起したい。土曜講習、英検講習及び学習コンテンツは成果が表れており、英検は準1級1名、2級38名合格し受験時の換算で進路実現につなげた。

ウ 英語の授業で全ての教員が4技能の育成に取り組む工夫を図った。今後一層の効果的指導に組織的に取り組む必要がある。今年度、TGG、JETの活用は進み「海外学校間交流」は、マレーシアの高校生と交流2回（1回はオンライン）実施し英語の活用が進んだ。更なるグローバル人材育成が課題。

エ 授業中のICT機器の活用は進んでいる。今後はスマスク端末の活用の工夫が必要である。

（2）進路指導

①☆目標

計画的で組織的な進路指導を充実し、より高い目標の進路実現を図らせる。

生徒の意識を「行ける大学に進学する」から脱却させ「行きたい大学に進学する」に高める。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 計画的な進路指導の充実 模試結果やスタディサポート結果等を教員が分析し、そのデータを生かした指導を徹底する。(模試の分析会、生徒集会、面接、出願検討会、ケース会議を行い活用する。)	ア 計画的な進路指導の充実 ○データを用いて大学出願検討会を実施し、三者面談週間に活かした。 ○4年制大学進学率 68.0 % (R5 60.1%, R4 68.5%, R3 63.1, R2 58.0, H31 50.6%) ○スタディサポート毎に報告会を実施。結果を担当教員が分析し、対策を立て報告会で共有した。 ○総合型選抜で受験する生徒が増加、推薦は減。 一般 65%(R5 55% ,R4 48%, R3 38%, R2 39%) 推・総 35%(R5 45%,R4 52%, R3 61%, R2 61%) ○中堅以上の大学受験者増。合格者も下記の通り増。 日東駒専以上 83 名(R5 70 ,R4 58 , R3 20, R2 33) ○3 学年希望者の朝学習、放課後勉強会の対応。
イ 学習機会の充実 ア) 自習スペースの活用や朝学習、放課後勉強会等、学校での学習環境及機会を整える。 イ) 部活動単位の学習会等、集団で学習に取り組む雰囲気醸成する。 ウ) 長期休業中や放課後の講習では生徒の学力に応じた学習をさせる。 エ) 「東部学校経営支援センター支所特別指定校」に基づく外部指導を受け生徒の自主的学習を促進。	イ 学習機会の充実 ア) 学級増のため自習室が確保できず、個別学習用の机を各階に設置するとともに、来年度は図書館を 18:30 まで開館し生徒の自学自習を推進予定。 イ) 部活動単位の学習会を複数回実施した。 ウ) 学習コンテンツの有効活用による自宅学習課題の提供及び意欲ある生徒への土曜講習受講を推進。 エ) 支所の指定校を受けて、3 回のアドバイザー会議を受け、組織的進路指導を進めた。
ウ 推薦入試や総合型選抜への対応を計画的、組織的に行う。進路指導部を中心に面接や小論文指導を全教員体制で行う。	ウ 推薦入試や総合型選抜への対応を計画的、組織的に行う。管理職を含め進路指導部を中心とした組織的な面接指導及び小論文指導を充実させた。
エ 大学入試における総合型選抜への対応 「行きたい大学に進学する」ため、筆記試験にチャレンジさせる方針は堅持しつつ、総合型選抜受験対策のために、総合的探究の時間の充実を図る。	エ 新大学入試への対応 「総合的な探究の時間」の内容や指導方法の検討を総合的探究部会で複数回行い、探究活動の充実と「人間と社会」の授業体制の充実を図っている。
オ キャリア教育の充実 ア) 高校生活の目的意識を深めさせるため、将来働くことの意味や生き方を考えさせる。 イ) 自己理解を深め、早期に自己の在り方・生き方への目標をもたせる。	オ キャリア教育の充実 ア) 各種進路行事や講演会を実施し、発達段階に応じた将来の意義を考えさせた。 イ) HR 活動を活用し在り方・生き方教育に取り組み、個々の目標を定めさせた。

③課題と改善策

- ア 模試の内容を生徒の学力に適合させ、かつ、全員の年間 3 回受検を通して、1 回毎に事前学習や事後の分析を十分に行える体制を固めた。大学進学希望者向けの模試は継続して設定。この模試結果を進路指導に生かすべく、進路指導部がリードしてデータによる進路指導の体制を構築している。
- イ 大学入試制度が変わり、測られる学力が変わった。対応できる思考力、判断力、表現力や主体性の育成と学力水準の向上は十分ではない。そのため家庭学習習慣はもとより、すき間時間の活用を身に着けさせることが重要と捉える。また、読解力の向上も課題で、漢検に代えた文章検定では 1, 2 学年で 140 名の準 2 級合格と 122 名の 3 級合格につなげて読解力の向上を図った。来年度に継続したい。
- ウ 大学入試制度の切り替わりの中で、受験生の不安は依然高く、不安を抱く生徒ほど、推薦入試で早期に決めようとする傾向がある。その一方、一般選抜や総合型選抜でチャレンジして希望校合格を手にする生徒も大幅に増加し、大学入学共通テストの受験者数は昨年度比で 70 名増の、172 名であった。全国との得点差は広がっているが、生徒の意識は共通テストだけで決めるのではなく、総合型と一般を組み合わせて合格するパターンが伸びた。しかし、今後も大学受験は推薦に依存せず、一般選抜と総合型選抜で上位にチャレンジし、学びたい大学に入学できる生徒を育成することが肝要である。
- エ 「東部学校経営支援センター支所特別指定校」で年 3 回の外部指導者の指導を頂いた。2 学年 3 学

期に提出する「第一希望届」で早期の自覚を持たせ、自学自習時間を増やす施策の充実が課題である。

(3) 生活指導

①目標

規律ある学校生活を指導し、自主的な生徒の活動を推進する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 規律指導の徹底 ア) SNS紅葉川ルールに基づく適正な使い方を促し、SNSによる問題行動を未然に防ぐ。 イ) 年間3回のいじめアンケートを実施し、記述内容から問題を早期に発見し、速やかに解決を図る。	ア 規律指導の徹底 ア) SNS紅葉川ルールを生徒に周知し生徒が自主的に適切な使用方法を身につけるよう継続した。 イ) 年間3回のいじめアンケートで、いじめが疑われる時には担任が面接し確認するとともに、必要に応じていじめ対策委員会を開き速やかに対応した。
イ 美化活動 ア) 日常的な美化活動に努め、校舎内の環境整備を進める。	イ 美化活動 ア) 生活指導部を中心に、生徒会の美化委員会を中心に校内の美化をすすめた。

③課題と改善策

ア SNS等による問題行動が数件起きた。いつでも起こりうることを認識し、情報モラルの指導をあらゆる機会を通して、継続して行う必要がある。

イ いじめについても顕在化することはなかったが、いつでも起こりうることを認識し、生徒の様子を注意深く観察していく。保健部会における、見守り等の必要な生徒情報の共有化の文化が校内に定着。生徒への対応がSC、担任、養護教諭及び生活指導担当による対応の組織化が進んだ。

ウ 学校全体として、生徒の身だしなみは落ち着いているが、一部に頭髪と女子のスカート丈と化粧が課題となる生徒がいる。学校全体として共通認識に基づいた対応が必要となる。

エ 校舎等の老朽化がすすみ、汚れ等も目立つようになっている。大規模改修への道筋が立たない中で、小規模で短中期的な美化活動計画を策定し、教職員、生徒が協働して進めていく。

(4) 特別活動・部活動

①目標

他者の話しをよく聞き、自らも伝え、異なる意見を持つ者同士が行事や部活動をやり遂げる経験を通して、人間関係調整力、自己肯定感、主体性を高める。諸活動を通して共同体意識を醸成し「相手に何ができるか」を考える人材を育成する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 学校行事 ア) 体育祭、文化祭等及び合唱祭では実行委員会を中心に生徒が主体となって活動する機会を多くする。	ア 学校行事 ア) 3大学校行事である体育祭、文化祭、合唱コンクール及び球技大会を問題なく実施できた。
イ 部活動 ア) 部活動加入率を高める。 イ) 部活動指導員・外部指導員の活用等により、専門性の高い指導を行い、技能の向上を図るとともに教員の負担軽減を目指す。 ウ) 練習内容や練習計画を見直し、効率的で効果的な活動を行う。	イ 部活動 ア) 加入率 87.8% (R5 87.8%, R4 86.8%, R3 87.7%, R2 88.4%) イ) 外部指導員と部活動指導員あわせて 14 名で各部の技術指導を充実。教員の負担軽減につながった。 ウ) 練習内容等の見直と効率的な活動で学習との両立を目指した。
ウ 地域との交流活動の活発化 地域や施設行事等への参加や手伝いを行うとともに特別支援学校・小学校・中学校と交流活動を行う。	ウ 地域との交流活動の活発化 地域の町内会及び小学校でのボランティア活動を行った。
エ 学校 2020 レガシーの推進 オリ・パラ 5つの資質の育成を継続し、共生・共助社会の形成を担う生徒を育成する。 ア) アスリートとの交流活動を年間 1 回以上実施	エ オリ・パラの資質を育成して、共生・共助社会を作る生徒を育てる施策を行った。 ア) 能楽師を招いた能楽の体験授業を行った。グローバル人材の育成につなげることができた。

イ) グローバル人材育成のために「海外学校間交流推進校」の施策を通して、海外の生徒や海外にルーツのある生徒との交流等を行い、国際感覚を育てる。	イ) 特別支援学校との交流はできなかった。 ウ) 近隣大学の留学生との交流とマレーシアの高校生との交流は2回で合計3回行った。
---	--

③課題と改善策

- ア 体育祭・文化祭・合唱コンクール及び修学旅行を通して、共同体意識の醸成を行い、違いを大事にして「相手に何ができるか」を考え行動できる生徒を育てる場になるように指導を継続する。
仲間と一緒に行事や部活をやり切る経験を、受験や将来に向き合う覚悟になるように育てる。
- イ 部活動では高い加入率を保ち、必要に応じて感染防止対策を講じての活動となった。
- ウ 12名の部活指導員が会計年度任用職員として勤務し、部活動の技術力の向上に加え、教員の業務軽減にもつながった。今後は引率業務を行うなど、一層部活指導に力を発揮してもらうことを期待する。
- エ 今後も、生徒と有識者の触れ合いを通して2020レガシーの推進を行う。「海外学校間交流推進校」によるグローバル人材育成を継続する。また、特別支援学校、小・中学校との交流で、共生・共助社会を作る生徒を育成。多様な生徒の入学を想定し「学校生活支援シート」の理解と活用を進める。

(5) 学校経営

①目標

社会の変化や要望に対応した教育活動を組織的に行える学校。「丁寧な指導」をモットーに全ての生徒の伸びしろで勝負する学校とする。誰一人取り残さない学校作りを土台として、必要に応じて合理的配慮を行う等、生徒の実態に応じた特別支援教育を行う。また、ライフ・ワークバランスを確保できる環境をつくる。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 人材育成 ア) 職に応じた業務を担当する中で、能力開発を行う。前例踏襲型ではなく、課題解決型で仕事を行う。 イ) 主幹教諭、主任教諭から若手教員等への指導を徹底する。	ア 人材育成 ア) 主任教諭を主だったポストに配置し、課題を整理し、企画調整会議で解決策を提案するなど効果が見られた。主幹会議の活性化を図り、分掌横断的な課題の検討を行った。 イ) 8名の若手教員育成研修対象者に対し、研究授業などを通じて丁寧な指導を行った。
イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ア) 会議時間を短縮する。(会議時間は50分を上限とする。) イ) 起案文書の電子化の徹底を図る。	イ 効率的な職務遂行のための業務の見直し ア) 企画調整会議を効率的なものとし、職員会議は50分以内とした。 イ) 電子起案の徹底を図り、98.6%となった。
ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす 部活動で外部顧問を活用し引率や指導を必要最少の人数で行いライフ・ワークバランスを確保する。 週1回の全教職員午後5時台の帰宅を目指す	ウ 勤務時間以外の在校時間を減らす ア) 12名の部活動指導員及び2名の外部指導員を活用し、教員の負担軽減を図った。 イ) 勤務時間以外の在校時間が80時間以上の教員に対し、必要に応じた面接を行った。 ウ) 週1日5時半退庁を奨励し1月95.6%となった。
エ 服務事故防止に努め、信頼される学校を作る。 ア) 答案や成績資料、調査書、奨学金、就学支援金等の個人情報の取り扱いルールを遵守する。 イ) 部費の管理をルールに基づき、適切に行う。 ウ) 服務事故防止研修を年間2回以上開催するなど、体罰・暴言他、信用失墜行為を未然に防止し、服務事故ゼロとする。	エ 服務事故ゼロを目指して周知と研修を行った。 ア) 考査等の時期の朝打ちで、ルールに基づいた取り扱い複数チェック等の徹底を周知し予防した。 イ) 部費は適正な管理とチェック体制が構築された。 ウ) 人権意識の醸成を図るべく、打合せ等での周知を繰り返し行った。
オ 適正な予算執行と施設管理の徹底 ア) 会計処理は、正確かつ迅速に行う。 イ) 授業料や学校徴収金の管理を丁寧・迅速に行う。 ウ) 施設の破損や老朽化による不調は速やかに対応。	オ 適正な予算執行と施設管理を複数確認で徹底。 ア) 適正な会計処理を行った。 イ) 授業料や学校徴収金の管理は適正に行った。 ウ) 破損や老朽化による不調は生徒の安全を第一に

	速やかに対応した。女子トイレの洋式化は96%を超えた。高圧洗浄機による校舎外壁面の清掃を実施、破損していた床面の一部張替えを実施。
--	---

③課題と改善策

- ア 教員経験の浅い若手教員が多い職場なので、様々な職務を経験させ、教師としての力量を高めるとともに、今後もOJTの中で人材育成を図っていくことが今後も重要となる。
- イ 部活動指導や教材研究、生徒指導に熱心となり、在校時間が長くなりがちな若手教員が多い。仕事の効率化を意識させるとともに、産業医面接を有効に活用する。時間的負担の軽減も図る。
- ウ 今後も体罰・暴言の防止、個人情報の適正な管理等を徹底し、服務事故のない環境づくりが必要である。
- エ 校舎は築39年を迎え、老朽化が目立ってきた。特にエアコンの整備は急務。将来は大規模改修を行うとしても、生徒の快適な学習環境の維持のために、短中期的な計画に基づく整備が必要である。

(6) 募集・広報活動

①☆目標

教務部総務部門と募集対策委員会が連携し、組織的な広報活動を全教職員で行い、本校の特色を中学生及びその保護者に広く周知する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 情報発信の強化 ア) ホームページ等のリニューアルと更新頻度の向上 行事や集会、部活動の取り組み等生徒の日常の様子をタイムリーに掲載する。 イ) 保護者への情報発信 保護者連絡向けのお知らせや案内を掲載する。	ア 情報発信の強化 ア) 2学期にホームページの更新頻度を上げて、生徒の様子が分かる内容とした。体育祭・文化祭・合唱コンクールや修学旅行等の行事を掲載した。Instagramは、今までの部活のみならず、学校公式を立ち上げ、情報発信の幅を広げた。 イ) Teams 連絡と保護者連絡システムを活用した。
イ 募集対策の強化 ア) 中学校及び学習塾への訪問を教職員で行う。また、生徒には近況の報告をさせるため、出身中学校や学習塾を訪問させる。 イ) 学校説明会や授業公開では中学生や保護者に環境整備を含め丁寧な対応に努める。	イ 募集対策の強化 ア) HP 及びInstagramを活用して生徒の活動を紹介して、学校説明会に招待する方法を継続するとともに、中学校への卒業生訪問を実施した。 イ) 校内環境の整備をした。 安心して参加していただく環境を整えた。 学校案内をより見やすい内容に改訂した。 【入選応募倍率】 推薦入試 R6 2.67 (R5 2.89, R4 2.45, R3 3.76) 一次応募 R6 1.10 (R5 1.50, R4 1.24, R3 1.63)

③課題と改善策

- ア 学校の生徒の様子が分かるように、HPを充実させた。Instagram等の保護者や中学生が目にするやすい媒体を活用して、学校説明会に来ていただいた。説明会では生徒の係分担を多くして、様子を見ていただいた。学校案内は分かりやすい形式を継続した。地域からの評判が高まる学校となるよう丁寧な生徒指導を今後も継続していく。
- イ 今年度の募集倍率の低下対策として、募集対策における、中学校等への広報がさらに必要と考える。同時に、募集倍率との関連性は確実とは言えないまでも、学校設備のうち、特にエアコンの老朽化は無視できない状況であるので、細かな対応をしつつ、今後は十分な整備につなげたい。まずは来年度6月を目途にエアコンの修繕を行う予定である。

(7) 安全・防災・健康教育

①目標

心身にわたる健康増進と安全に対して、自ら考え、行動する力を育成する。

②方策と取組結果

方 策	結 果
ア 防災訓練 避難訓練、宿泊防災訓練を強化し災害時における初期の基本動作を身につけさせる。また、江戸川区消防署及び、地域と連携した防災教育を推進する。	ア 防災訓練の充実 実際の避難経路の確認、地域と連携した防災教育を行った。
イ 交通事故防止 セーフティー教室等で自転車の乗り方指導を行うとともに、自転車保険への加入を義務化する。	イ 交通事故の防止 自転車通学者の自転車保険加入及びヘルメット着用を自転車登校の必須条件とした。
ウ 健康管理及び教育相談 ア) スクールカウンセラーとの情報交換を密にし、当該学年、生活指導部、管理職間で情報を共有する。 イ) 教育相談センターや専門医派遣事業等を活用するとともに、SOS の出し方を様々な機会伝える。 ウ) 生涯スポーツの観点に立ち、健康で活力に満ちた生活をデザインする資質と能力の育成のため効果的な体育健康教育を実践し生徒の体力向上を目指す。	ウ 健康管理及び教育相談 ア) 毎月の保健部会で、教員、スクールカウンセラーで情報交換を行い、生徒に関する情報の共有を図り、早期の問題解決につなげた。 イ) S C による教育相談に関する校内研修を 1 回実施。S O S に関する校長説話を年 3 回実施。 ウ) 授業及び生徒会主催の球技大会等を通し、生徒自ら生涯スポーツに向き合うよう奨励した。

③課題と改善策

- ア 保健部会を通して、相談体制の充実を図り、早期に様々な問題を解決できた。この体制を継続していくことが重要である。生徒への S O S の出し方研修は H R や授業で充実させて組織化する。
- イ 近隣の小学校の登校時刻と本校生徒の登校時間が重なると、危険度が高まるので、乗り方マナーを徹底した。自転車の乗り方指導は今後も繰り返していく必要がある。
- ウ 運動量のある球技を授業で取り入れ積極的に活用。運動が得意ではない生徒の運動の機会をどのように保つかが課題。

(8) 数値目標

① 学校運営連絡協議会が行う学校評価における数値目標

項 目	目標値	R 6 年度	R 5 年度	R 4 年度
ア 生徒の本校に対する満足度	9 0 %	8 5 %	8 7 %	8 7 %
イ 生徒の授業に対する満足度	9 0 %	8 5 %	8 8 %	8 5 %
ウ 生徒の進路指導に対する満足度	9 0 %	8 9 %	8 2 %	8 1 %
エ 生徒の行事に対する満足度	9 0 %	8 8 %	8 9 %	8 7 %
オ 生徒の部活動に対する満足度	9 0 %	8 8 %	9 0 %	8 7 %

②生徒が希望する進路実現を果たすべく進路結果を数値目標として設定する。(現役生徒)

項 目	目標値	R 6 年度	R 5 年度	R 4 年度
ア 4 年制大学進学率	6 5 %	6 4 %	6 0 %	6 9 %
イ 日東駒専の合格者数	4 0 名	5 9 名	3 4 名	2 9 名
ウ 国公立・早慶上智・GMARCH・理科大の合格者数	7 名	3 名	5 名	7 名

③生徒募集対策の改善を図り、応募倍率の向上を目指す。

項 目	目標値	R 6 年度	R 5 年度	R 4 年度
ア 推薦による入選の応募倍率 (男女平均)	3 . 2 倍	2 . 6 7	2 . 8 9	2 . 4 5
イ 学力検査による入選の応募倍率 (男女平均)	1 . 6 倍	1 . 1 0	1 . 5 0	1 . 2 4

④生徒の毎日の生活行動から、学校生活への取組状況及び指導の成果を把握する。

項 目	目標値	R 6 年度	R 5 年度	R 4 年度
ア 1・2 学年家庭学習時間：平日 1 時間以上の割合 (生徒アンケート結果)	5 0 %	1 年29.9% 2 年18.9%	1 年18.3% 2 年13.1%	1 年14.2% 2 年24.0%
イ 部活動加入率 (5月1日時点)	9 0 %	8 7 . 8 %	8 8 %	8 8 %

